

# ある母が選挙詐欺と過激教育委員会に反対し、FBI に自宅を襲われる

「アメリカのママ」がんばれ！

Infowars.com

November 20, 2021

<https://www.infowars.com/posts/mother-describes-fbi-raiding-her-home-for-speaking-out-against-election-fraud-radical-school-boards/>

⇒「私はこれは、大きな脅迫運動だったと考えざるをえません——なぜなら彼らはこんなことを、他の誰に対してもやったことがないからです」

あるコロラド州の母親が、彼女の地方市議会の極左役員たちに、反対する発言を行ったために、FBI によって自宅を襲撃された、悪辣な事実を説明した。

「「アメリカのママ」という活動家グループを作った女性、Sherronna Bishop が、土曜日、Steve Bannon の *War Room* に参加し、いかに米警察特殊部隊 (SWAT) が、彼女の自宅のドアを蹴破り、彼女の子どもたちを脅し、彼女に手錠をかけて連行したかを話した。

<https://www.youtube.com/channel/UCRMqF9yujiAfp1YQ4KmI36Q>

「私はいつだって隠れたりしないのです。それなのに彼らはわざわざ私の自宅にやってきて、こんなふうにドアを破り、私の家族を怯えさせ、私に手錠をかけたのです」と、ビショップは話した。

「そこで私は、これは大きな脅迫の運動だったのだと考えざるをえないのです。なぜなら彼らは私以外の誰に対しても、こんなことをしたことがないから。」

「覚えておられるでしょう——DOJ (司法庁) は、あんまり活動したり発言する親は、家庭テロリストとみなすものと心得よ、と言ったことを」と、ビショップは言った。「そして私は、彼らが私の家を狙った、この野蛮な暴力を考えると、それは現実の犯罪 (捜索) というよりは、メッセージの意味が大きいと考えざるをえません。」

<https://news.yahoo.com/nsba-coordinated-white-house-doj-231215595.html>

Lauren Boebert 議員（共、コロラド）の前キャンペーン・マネージャーであるビショップは、最近の特別選挙で、9つの地方教育委員会を、「批判的人種理論」（CRT）や他の自由主義アジェンダを教室で暴くことによって、9回も保守党側にひっくり返した、と語っている。

これによって、バイデンの司法省が、活動家のママに対して、荒っぽい暴力による報復をしたものと説明できるだろう。<https://www.westword.com/news/lauren-boebert-interview-on-freedom-trump-ted-nugent-11809520>

### 【訳者 Greatchain 解説】

この短い記事によっていろんなことがわかる。まず、このママと子どもたちの住む家の、扉を破壊して襲ったのは、SWAT と呼ばれる、恐ろしげな特殊部隊で、そんな必要はなかった。彼女が「私はいつだって available (逃げも隠れもしない)」と言っているように、これは彼女の言う intimidation (怖がらせ) にすぎないだろう。いわば、これは秋田の「なまはげ」のようなものだが、「なまはげ」が伝統ある神事であるのに対して、これはもっとタチの悪い卑劣なものである。可哀そうに、子どもたちは、家が壊され、ママが手錠をかけて連れていかれるのを見て、どれほど恐ろしかったことだろう。

しかし何とこれが FBI の仕業とは驚く。このママが毅然として不正に立ち向かう正義漢で、子どもたちに歪んだ性教育をするような (CRT も同じ)、今問題になっているバイデン政権の間違いを正そうとしたことに、国家機関の FBI が腹を立て、報復したとしか考えられない。これは恐ろしいことだが、同時に、明かに国家として機能しなくなった者たちの、破れかぶれの行為で、兇戯と言ってもよい。

子どもたちを怖がらせるには、確かに効果があるだろう。しかし、このビショップ女史の子どもたちが何歳かは知らないが、ある程度以上なら、あまり怖がらないのではないだろうか？ 子どもたちは、この国家、あるいは政権が腐っていることを、カンあるいは風評で知っているであろう。数日前にも、8歳の女儿が、教育委員会のような人たちに、「みなさん、監獄へ行かないでください」というようなことを言って、会場を沸かせた。

アメリカという国の一部の指導者が、普通、常識としてやれないようなことを、平気でやる習慣があるのは、昔から知られている。アメリカがシリアでやっている汚い戦術を、密かに見届けたある女性ジャーナリストが、「デスピカブル」（卑劣極まる）という言葉を書き連発していたことを、前に紹介したことがある。私は反米を煽っているわけではない。

そのような少数の者たちが、アメリカを乗っ取ろうとしているという事実を、長年にわたって述べているだけである。

たった今入ったニュースに、「人類は勝利しつつある——グローバリスト NWO 体制は死につつつあるのでない、それは死んでいる。しかし彼らは、我々を道連れにしようとしている」とある。<https://www.infowars.com/posts/sunday-live-bidens-doj-may-bring-federal-charges-against-rittenhouse/>

この「彼らは我々を道連れにする」というところが恐ろしい。なぜなら、彼らに「名誉」「潔さ」の概念が全くないからである。彼らは文字通り「何をするかわからない。」彼らは、ミズ・ピショップの家族を殺さなかったかもしれない。しかし何らかの卑劣極まる方法で、彼らに別の報復をするかもしれない。これはごく新しい話題として、Kyle Rittenhouse という正義の戦いで2人を殺し、起訴されたが、無罪となった17歳の少年についても言える。バイデンを含めて、この少年を狙う者たちがいる。

ついでに、今ニュースで聞いた、3回目のワクチンを打つという政府の方針について言っておく。ファウチは、現在行われているワクチンは失敗だった、効き目がなかったと、声明によって認めていることをご存知か？ しかし同時に、ファウチは、ブースターがこれから6か月ごとに必要なる、それはもっと効き目を長持ちさせるためだ、と言っている。これは歯止めは掛けるということで、ワクチンを改良するという話ではないことを、知っておくべきである。

<https://www.infowars.com/posts/fauci-says-americans-may-need-boosters-every-6-months/>